

エネルギー管理システムの現状と展望

金川仁士*

Current Status and Future Prospect of Energy Management System

Hitoshi Kanagawa

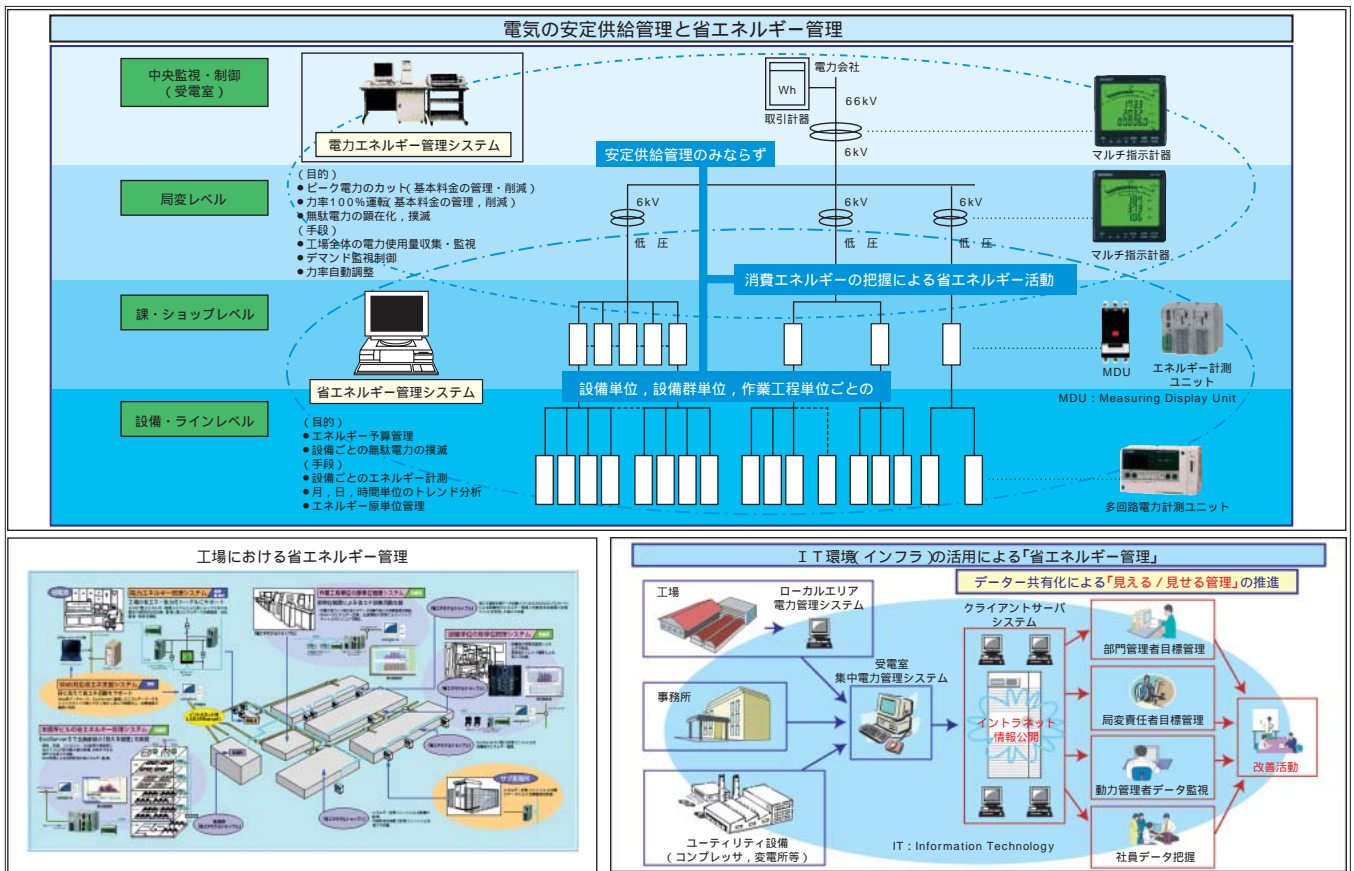
要旨

工場におけるエネルギー管理は、これまで受配電系の安定供給管理が中心であったが、省エネルギー法を背景とした省エネルギー活動活発化により、その管理ポイントが、低圧レベルの消費エネルギーの把握による省エネルギー活動に拡大している。

従来の受配電系を中心とした電気の安定供給管理、デマンド管理、力率改善に加えて、省エネルギー目標値管理を目的とした低圧の動力、電灯を中心とする消費エネルギーの把握、設備単位、設備群単位、作業工程単位の原単位を指標とした省エネルギー管理と管理対象が拡大している。それぞれの計測、監視対象は、計測、監視機器をネットワ

ーク化した通信を利用したシステムで構築され、特に、省エネルギー管理においては、情報インフラとして使用されていたイントラネットを活用して情報の共有化による全員参加の省エネルギー活動を啓蒙するシステム化が図られている。

三菱電機では、従来からの受配電系の安定供給管理のためのエネルギー管理システムと、省エネルギー活動を支援するための省エネルギー支援システムを提供しており、本稿では、これらのシステムについて述べる。なお、各々の特長を生かした総合的なエネルギー管理としてうまく融合させた製品開発を行っていく。



工場における電気の安定供給管理と省エネルギー管理システム

受電点を中心とした電気の安定供給管理から、近年、省エネルギー活動支援を目的とした部門別のエネルギー使用量の把握、生産ラインのエネルギー使用量の把握へと、計測管理ポイントが拡大してきており、電気の安定供給管理 + 省エネルギー計測管理システムがITインフラを使用したものに变化してきている。

*福山製作所